



うきうき 子どもックル

季刊 第25号

2013年 発行

神経内科 ご紹介

神経内科では、主に脳、神経、筋肉に異常があり症状を呈している患者様の診察、診断、治療を行っています。脳、神経、筋肉に異常があっておこす症状として、けいれん、運動や言葉の遅れ、体の力が弱い等々の症状を呈します。今回はけいれんについてお話しします。

診察中にけいれんをおこすことは少ないため、家族をはじめけいれんを見ていた人の観察が診察にはとても重要となります。観察のポイントとしては、いつ、どのような状況でけいれんがおこったか、けいれんの様子（頭や顔の向き、手足の状態等）、けいれんの持続時間、けいれんが終わった後の様子（手足が動くか、言葉がでるか等）です。初めてけいれんが起こった時は、ただ驚くばかりだと思いますが、もしけいれんを繰り返すようであれば慌てずにお子様の状態を観察し、また余裕があれば携帯等の動画で撮影してくれれば、とても診療に役立ちます。

けいれんの時は周りから危険なものを遠ざけて下さい。吐いた時は、できる範囲で吐いた物を取り除いて下さい。けいれんの最中に、口の中に箸やスプーン、タオル等を入れると窒息や歯の折損、口の中を傷つけてしまうことがあります。指も噛まれる危険があるので絶対に入れないで下さい。

次にけいれんが起こす原因を探すために、血液、尿、髄液、脳波、画像検査（CT、MRI、SPECT）等の検査にすすみます。脳波は、頭皮に電極を貼りつけて、脳の電気活動を記録する検査です。脳が興奮しやすい状態にあると、てんかん波という異常波が出現します。私たちはてんかん波の形、出現する頻度や部位を評価しています。睡眠中はてんかん波が出現しやすくなるため、検査中に眠る必要があります。脳波検査前にはできるだけ眠らせないようご協力をお願いします。場合により睡眠薬を使用して眠らせることもあります。

頭部CT、MRIは、脳の構造的な異常を検出し、SPECTは脳血流を評価します。脳波でてんかん波の出現部位がわかっている場合は、そこを中心に画像検査を見ていきます。これらの画像検査は動く画像がぶれて評価ができないため、睡眠薬で眠らせて検査することが必要になることもあります。診察、これらの検査結果をあわせて、どうしてけいれんがおこったのかを診断し、治療にすすみます。どの患者様にどこまでの検査をするのか決めるのも、診察が一番大事です。けいれんを見ていた人の話を詳しく聞いて、診察に来てください。 神経内科 高山留美子

10月15日（火）

病棟にて、ホッとアートプレゼント全国ネットワーク事業「アンディ先生のマジック教室」が開かれました。アンディ先生とモンちゃんによるトランプマジックや人が入れ替わるイリュージョンなどが披露されました。重たいボーリングの玉が紙から飛び出すマジックもあり、不思議な技にみんな拍手喝采！楽しい時間となりました。本当にありがとうございました。



「秘密の花園 手術室」を紹介します！

こんにちは！

他のカラフルな職員と異なり緑一色のユニフォームに包まれた可愛くない感じの私たちは、手術室看護師です（卑屈！？）

いつも手術室にこもり、手術や検査のとき以外はなかなかお会いすることができません（寂しい！）ので、このチャンスを生かして、「秘密の花園」である手術室の中や私たちの働いている姿を紹介させていただきます



← 手術中の風景です。器械に囲まれ恐ろしい感じですが、外科医や麻酔科医、手術室看護師がチームとなって全力で対応しています

また、手術室入室の不安をできる限り軽減するため、手術室の入り口にはこんな大きな絵が天井に描かれています →



さらに、お好みのDVDを鑑賞しながらの入室もOK！



くさい麻酔薬の臭い消しには「イチゴ」「メロン」「ブドウ」などなど、フルーツパーラーさながらのエッセンスを取りそろえてお迎えしています

杏仁豆腐の香りと言われる「アーモンド」も意外と好評！



手術や麻酔のことが良く分からなくて不安でしょうが、可能な限り手術前日にお伺いし、手作り絵本などを使用してご本人やご家族に説明させていただきます。



わからないことやしてほしいことなどありましたら、遠慮なく上下緑色のユニフォームのスタッフにお申し出下さい。 病棟看護師にお伝えいただいてもOKです。

手術棟師長 山下

〒006-0041 札幌市手稲区金山1条1丁目240番6
北海道立子ども総合医療・療育センター
(コドモックル) Tel. 011-691-5696